

技術基準の社会への定着<建築基準のスタディ>
Socialization of technical standards in case of building codes

梶府 龍雄

Tatsuo Narafu

独立行政法人国際協力機構 国際協力専門員
Senior Advisor, Japan International Cooperation Agency

日時: 2018年10月25日(木) 14:55-16:40
会場: 東京大学工学部2号館2階223号講義室
授業科目: 工学リテラシーⅡ(科目番号3799-150)

概要:

技術基準は、社会に受け入れられ、実務で使われて初めて効果を発現する。この社会への定着の難易は、技術の種類や技術を使う業界の体質や技術者の能力などにより、大きく左右される。その中で、建築分野はかなり難しい分野であり、開発途上国における甚大な地震被害はそれを裏付ける。日本では、全国的な建築基準を整備し、技術者の資格制度などの関連する制度の整備をしながら、約100年をかけて相当レベルまで遵守される状況を作り出した。その間の取組みを概観することにより、技術基準の社会への定着について考える。



主催: 東京大学大学院工学系研究科「機械システム・イノベーション」プログラム (GMSI)
東京大学 社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム (GSDM)
東京大学 未来社会空間の創生 国際卓越大学院 (WINGS iFS)
本件連絡先: 東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻 教授 横野 泰之
GMSIプログラム事務局 E-mail: office@gmsi.t.u-tokyo.ac.jp Phone: 03-5841-7437